

歯の硬組織疾患学入門

Introduction to Dental Hard Tissue Diseases

キーワード

- ① 口腔統合医療学
- ② う蝕制御修復学
- ③ プラーク・バイオフィルム
- ④ 再石灰化
- ⑤ Minimal Intervention (MI)

授業概要

歯の硬組織疾患の成因について熱力学および生体力学的特性に焦点を当てて解説する。前半ではう蝕および非う蝕性硬組織疾患の成因をpH、カルシウムイオン、リン酸イオンならびにフッ化物イオンといった観点から多角的に論ずるとともに、DIAGNOdentやQuantitative Light-induced Fluorescence (QLF)といったう蝕診断機器の特徴について解説する。後半はそれらの現象を反映した研究手法の紹介とそれらを利用した硬組織疾患予防・治療材料の開発に焦点を当てて論じる。

授業科目の学修目標

硬組織疾患の成因ならびに病態について学ぶことは、脱灰抑制・再石灰化促進手段の開発や評価に必要な知識を蓄えることに繋がる。また、MI実践のための材料ならびに方法を学ぶ前段階として不可欠の学問である。本科目では大学院レベルにおいて必要な知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 歯の硬組織疾患の成因・病態について
 - ・エナメル質・象牙質の脱灰再石灰化現象 6コマ 向井義晴
 - ・プラーク・バイオフィルムとの関わり 4コマ 向井義晴
 - ・う蝕および非う蝕性硬組織疾患の臨床的特徴 4コマ 向井義晴
- ② 初期う蝕診断機材について 4コマ 向井義晴
- ③ 硬組織疾患学研究論
 - ・う蝕病巣の審美的再石灰化療法 4コマ 向井義晴
 - ・多種イオン徐放性材料による歯質脱灰抑制・再石灰化誘導法とMI修復 4コマ 向井義晴
- ④ 日本歯科保存学会における倫理規範 4コマ 向井義晴

教科書および参考書

図説齶蝕学、医歯薬出版、須賀昭一編

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

硬組織疾患学研究論ではう蝕制御修復学分野で発表された関連する研究論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 歯の硬組織疾患の成因・病態について説明できる。
- ② 初期う蝕診断機材について説明できる。
- ③ 硬組織疾患学研究論を理解し実践することができる。
- ④ 硬組織研究領域における倫理規範を理解し応用することができる

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
30%	0%	40%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回30%
- ・レポートは、硬組織疾患学研究論の2項目について課題を提出する。20%×2回=40%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

歯の硬組織疾患学入門の理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。